

会社概要

(2025年9月30日現在)

社名 トーカロ株式会社 TOCALO Co.,Ltd.
 設立 1951年7月
 所在地(本社) 神戸市中央区港島南町六丁目4番4号
 資本金 26億5,882万3千円
 従業員数 単独 976名 連結 1,550名

[グループ会社]

日本コーティングセンター株式会社
 神奈川県座間市
 株式会社寺田工作所
 福岡県中間市
 東華隆(広州)表面改質技術有限公司
 廣東省広州市
 東貴隆(昆山)電子有限公司
 江蘇省昆山市
 漢泰國際電子股份有限公司
 台南市
 TOCALO USA, Inc.
 カリフォルニア州
 TOCALO USA-Arizona LLC
 アリゾナ州
 PT. TOCALO Surface Technology Indonesia
 西ジャワ州カラワン県
 TOCALO Surface Technology (Thailand) Co., Ltd.
 チャンブリー県

役員

(2025年9月30日現在)

代表取締役	社長執行役員	小林和也
代表取締役	専務執行役員	吉積幸
取締役	専務執行役員	後藤志
取締役	常務執行役員	高橋浩
取締役	常務執行役員	水竜竜
取締役	(社外)	島倉剛
取締役	(社外)	利光子
取締役	(社外)	藤倉利
監査役	(常勤)	高陽
監査役	(常勤)	佐藤和
監査役	(社外)	富田陽
監査役	(社外)	進英
監査役	(社外)	浜博
監査役	(社外)	吉彦
監査役	(社外)	佐藤彦
執行役員	役員	後介
執行役員	役員	彦子
執行役員	役員	相馬
執行役員	役員	坂井
執行役員	役員	中井
執行役員	役員	平
執行役員	役員	濱田
執行役員	役員	寺谷
執行役員	役員	武裕
執行役員	役員	岡一

TOCALO トーカロ株式会社

〒650-0047
 神戸市中央区港島南町六丁目4番4号
 TEL 078-303-3433

株式の状況

(2025年9月30日現在)

発行可能株式総数 160,000,000株
 発行済株式の総数 61,200,000株
 (内、自己株式1,731,254株)

単元株式数 100株
 株主数 16,209名

大株主

株主名	持株数(千株)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	11,247
株式会社日本カストディ銀行	5,576
BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND (PRINCIPAL ALL SECTOR SUPPORTFOLIO)	2,711
トーカロ従業員持株会	2,488
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE FIDELITY FUNDS	2,082
GOVERNMENT OF NORWAY	2,066
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001	1,062
西條 久美子	1,036
STATE STREET BANK WEST CLIENT-TREATY 505234	984
JP MORGAN CHASE BANK 385781	773

証券コード:3433(東証プライム市場)



TOCALO REPORT 75
—中間報告書—
2025年4月1日▶2025年9月30日

TOCALO トーカロ株式会社



環境に配慮した
「植物油インク」を
使用しています。



代表取締役 社長執行役員 小林 和也

株主の皆様へ》 To Our Shareholders

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当社第75期中間期(2025年4月1日から2025年9月30日までの)の事業の状況につきまして、ご報告申し上げます。

当中間期の連結業績について

当社グループを取り巻く事業環境は、米国関税政策の影響や地政学リスクの高まりから、先行き不透明な状態が続いております。半導体分野は生成AIの重要性の高まりによりデータセンターへの投資が依然として活発でありましたが、それ以外は比較的穏やかな滑り出しであったことから、前年同期比で微増収に留まりました。一方で産業機械、輸送機器、電力・エネルギー分野は総じて堅調に推移しました。

このような状況のもと、当社グループは新規成膜プロセスの開発や受注活動の強化を行ったほか、持続的成長に向けた中長期的な視点での新市場開拓や新技術開発に加え、一層のコスト削減と生産効率の向上の取り組みを継続いたしました。

その結果、当中間期における当社グループの連結業績は、売上高が前年同期比24億48百万円(9.5%)増の283億11百万円、営業利益が同11億35百万円(21.1%)増の65億18百万円、経常利益は同12億35百万円(22.4%)増の67億56百万円、親会社株主に帰属する中間純利益は同8億71百万円(24.5%)増の44億27百万円となりました。

今後の業績見通し、舵取りについて

地政学リスクなどによる先行き不透明感は依然として続くものの、当社グループの連結業績は、ほぼ期初計画どおり順調に推移

しております、通期の売上高は570億円、経常利益は130億円を見込んでおります。

また、これから到来する世界的な半導体増産需要に備えるべく、東京工場、北九州工場の増設に着手し生産体制の拡充を図っており、名古屋工場では航空機関連事業や産業機械、鉄鋼分野などの生産能力拡張と事業強化を目的とした新棟建設を予定しております。

これらに加えて、新規成膜プロセス開発や顧客ニーズを見据えた設備投資ならびに人的資本投資を継続することで、持続的成長と企業価値向上ならびにサステナブルな社会への貢献を図ってまいります。

連結財務ハイライト

Financial Highlights

厳しい事業環境の中、通期業績予想の達成に向けて
尽力いたします



1 (注)第75期中間期において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、第74期に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。



私たちの事業》 Business Field

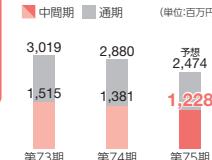


その他表面処理加工

前年同期比
11.1%



主なサービス内容
 ●TD処理加工(拡散浸透法)による表面処理
 ●ZACコーティング加工(化学濃密化成による表面処理)
 ●PTA処理加工(特殊粉体肉盛法)による表面処理



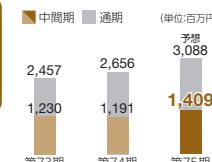
溶射加工(単体)、国内子会社、海外子会社以外のセグメントについては、医療機器向け加工が好調に推移したものの、農業機械部品、鉄鋼・自動車関連の加工需要が減少したことから、当セグメントの売上高の合計は、前年同期比1億53百万円(11.1%)減の12億28百万円、セグメント利益(経常利益)の合計は、同43百万円(23.0%)減の1億47百万円となりました。

国内子会社

前年同期比
18.3%



会社名
 ●日本コーティングセンター株式会社
 ●株式会社寺田工作所



国内子会社は、前期下半期から連結子会社となった株式会社寺田工作所の業績が加わったものの、日本コーティングセンター株式会社において自動車関連の受注が伸び悩んだことにより、当セグメントの売上高は、前年同期比2億17百万円(18.3%)増の14億09百万円、セグメント利益(経常利益)は、同3百万円(1.9%)減の1億54百万円となりました。

海外子会社

前年同期比
45.2%



会社名
 ●東華隆(広州)表面改質技術有限公司
 ●東華隆(昆山)電子有限公司
 ●漢泰國際電子股份有限公司 ●TOCALO USA, Inc.



海外子会社は、半導体関連、鉄鋼関連の受注が引き続き好調であったことから、当セグメントの売上高は、前年同期比17億58百万円(45.2%)増の56億49百万円、セグメント利益(経常利益)は、同11億21百万円(92.6%)増の23億32百万円となりました。



当社のWEBサイトでは、当社の事業内容をはじめ、株主・投資家の皆様に企業情報や財務情報について、積極的に情報開示を行っておりますので、是非ご覧ください。

● トップページ



コチラからアクセスいただけます

<https://www.tocalo.co.jp/>



● 統合報告書2025



コチラからアクセスいただけます

<https://pdf.ipocket.com/C3433/hGOm/hcmL/FS4o.pdf>

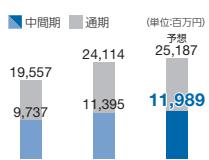


半導体・FPD分野

前年同期比
5.2%



半導体・FPD分野は、需要の伸びに一服感があるものの、AIの重要性の高まりによりデータセンターへの投資が活発化し、メモリやCPUなどのロジック製品が半導体需要を押し上げた結果、好調に推移し増収となりました。

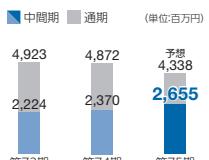


産業機械分野

前年同期比
12.0%



海外高速鉄道用車両ペアリング向けの溶射加工が伸長したことにより、発電設備および関連部品への溶射加工が好調であったことから増収となりました。



その他分野

前年同期比
5.3%



航空機エンジン部品の需要が堅調に推移したほか、環境エネルギー分野の受注が拡大したものの、ガラス・窯業やフィルム分野等が大きく落ち込んだことから減収となりました。

鉄鋼分野

前年同期比
2.7%



国内の鉄鋼生産量および設備投資が縮小していますが、高炉メーカーへの新規成膜プロセスの展開や電炉メーカーへの積極的な営業活動を展開した結果、前年同期並みとなりました。

その他

前年同期比
5.3%



(主にガラス・窯業、石油化学、紙パルプ、フィルム・複合分野)

溶射加工(単体)

前年同期比
3.3%



産業機械、その他分野の売上は堅調に推移したものの、半導体・FPD(フラットパネルディスプレイ)分野、鉄鋼分野は期初計画をやや下回ったことから、当セグメントの売上高は、前年同期比6億35百万円(3.3%)増の199億61百万円、セグメント利益(経常利益)は、同1億56百万円(3.6%)減の41億67百万円となりました。



» トーカロの今後の成長に向けて

1 経営の根幹をなす「ものづくり」と「問題解決」の追求

当社は、溶射を中心とする表面処理加工の専業メーカーとして、ものづくりを経営の基盤に置いています。

» ものづくりの高度化と 品質向上

ものづくりの高度化については、工場の自動化・省人化および省エネルギー化を実現するための設備投資を継続しておりますが、これに加えてDXの活用検討も進めております。

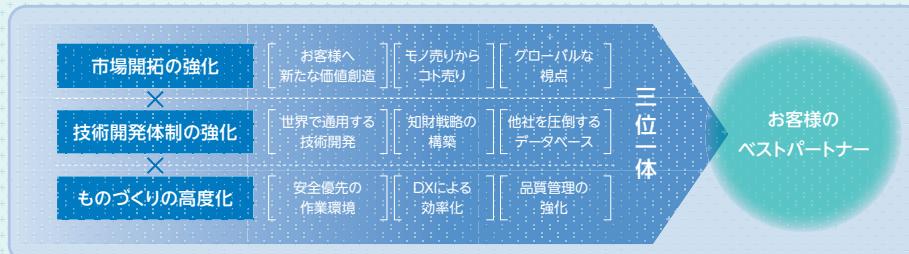
また、今後も安定的にお客様の要求を満たす品質を提供し続けるため、PQP(Product Qualification Plan)に注力するとともに、社員に対し資格取得を推奨するなど社内教育を一層充実させることで、さらなる品質管理体制の向上を推進してまいります。

» お客様が抱える問題解決への貢献 (グッド・サービス)

当社が目指すものづくりの姿勢は、お客様が望む製品を的確かつ迅速に提供するだけでなく、社員一人ひとりが「グッド・サービス」とは何かを追求し、人として誠実に対応することです。

グッド・サービスの追求は社是にも掲げており、お客様が現在直面している課題だけでなく、未来の課題に対しても自社の技術と提案で解決していくという姿勢を社内に浸透させています。お客様に本当に満足いただけるサービスを提供するためには、お客様の立場に立って要求を正確に把握し、最善策を導き出し、喜んでいただけることが必要です。

これを実現するためには繰り返しになりますが、社員一人ひとりが「グッド・サービス」とは何かを追求することが不可欠であると認識しています。



当社が今後さらなる成長を遂げるためには、ものづくりに対する姿勢が最重要であると考えております。それは、表面処理皮膜が持つ諸機能を通じて社会と環境への持続的な貢献を行うことを使命とした、経営理念と中期経営計画のビジョンに深く根ざしております。常に高品質かつ高機能な皮膜を追求し提供することで、ステークホルダーの皆様とともに成長し続けたいと考えております。

2 | 未来へ向けた先進的皮膜の開発と人財育成

当社は、先進的皮膜開発による持続可能な社会への貢献と、社内環境整備・人財育成に注力しております。

» 持続可能な社会への貢献

当社は、2030年の目指す姿として「人と自然の豊かな未来に貢献する」というビジョンを掲げております。また、表面処理皮膜が持つ省資源化・省力化・環境負荷低減といった諸機能を通じて、ESG(環境・社会・ガバナンス)を重視した企業成長ならびに持続可能な社会への貢献をテーマしております。人の暮らしの基盤を支える、半導体、インフラ、医療、農業などの分野から、社会と環境の維持に資する、風力、水力、地熱発電、三次電池など、温室効果ガス排出削減に寄与する分野に挑戦してまいります。

ビジョン (2030年の目指す姿) 「人と自然の 豊かな未来に貢献する」

» 社内環境整備と人財育成

当社は、安全を担保する体制の維持・向上を図るため
に労働安全衛生マネジメントシステムであるISO45001
／JISQ45100の認証を取得しております。

これらの認証に沿って、安全衛生に配慮した「綺麗で、機能的で、人にやさしい職場」の構築を図っております。

また、当社が持続的に成長するためには人財育成が必要不可欠であると認識し、教育機会の提供、健康経営、ダイバーシティ推進、ワークライフバランスの充実などの取り組みを進めています。さらに今年度は、社員一人ひとりが自分の仕事をしっかりと見つめ直したうえで、やりたいこと、挑戦したいことを見つけて自発的に取り組むことができる「チャレンジ応援制度」を新設しました。

● ESGに関する外部評価



CDP202
B337



えるぼし認定
最高位の3つ星取得



プラチナくるみ



健康経営優良法人